



この町のわたしのアキハヒ。



極真会館 東京城東支部

葛西道場

木立裕之さん

Hiroyuki Kidachi

「押忍！ 押忍！」。白い畳が一面に敷き詰められた空間に、気合いがたつぱり入った子どもたちの高らかな声が響きます。『シユツ』と道着が擦れる音、正拳を放ったときの空気を割くような音を聞いてみると、身の引き締まる思いがします。

ここ「葛西道場」には、幼児から小・中学生、主婦、シニア層まで200人ほどの門下生が、極真空手の稽古に通います。その指導にあたるのは、木立裕之さん。高校生で空手の世界に足を踏み入れ、37歳までの約20年、現役選手として活躍。全国大会や世界大会などの数々大会に出場し、全日本ウェイト制空手道選手権大会では三連覇を果たすなど、華々しい戦績を残しました。

「空手には、強くなる」という目標があるのがいいところです。試合に勝つということもそうですが、心身ともに強くするという意味です」と話す木立さん自身、空手を始めたきっかけは強くなりたかったからだそう。

「運動神経が鈍くて、絵を描くのが好きでした。体が小さくて弱く、意志も弱かった自分を変えたかったんですね。『強くなりたい』『負けたくない』という思いが強かったです。道場に行けば、言い訳はできない。すぐ投げ出すことが多かった自分

にとって、そこは貴重な場所だったと言います。

今こそ葛西道場の責任者として指導にあたる日々ですが、かつては一般企業に勤めていました。「睡眠時間が少なく、大変でした。練習時間が取れなかったので、家から会社まで片道20kmの道のりを、往復走って通勤したこともあります(笑)」。

その後脱サラし、空手指導員に。現役を引退して葛西に道場を開いたのは、今から5年ほど前のことです。「葛西には若い子育て世帯が多く、親子で一緒に習いに来る人もいます。親御さん自身が稽古をすると、学ぶ側の気持ちが変わる分、子どもたちの空手の精神の理解が深まりますよ」と顔をほころばせます。

穏やかな口調と柔らかな笑顔が印象的な木立さんですが、稽古が始まればピリリとした空気をまといまわります。そのメリハリが子どもたちに緊張感を与え、礼儀をわきまえた小さな武道家に変えます。「空手に古くから伝わる日本の精神を子どもたちに伝えていきたい。教えていてうれしいのは、『組手が変わったな』と思う瞬間ですね」。教え子の中には、国際大会や全日本の大会で2連覇を果たすほどの子も。木立さんの思いは、一つ一つ確実に実を結んでいます。

極真会館 東京城東支部
葛西道場

TEL 03-6456-0178

江戸川区東葛西5-1-14第7片田ビル2F 稽古日時/月～金曜10:00～15:30、土・日曜14:00～21:00

